

地域振興について

出典： 第56回球磨川水系河川整備基本方針検討小委員会 参考資料3抜粋
熊本県作成

特徴と課題

- ・ 球磨川流域の面積は、熊本県土の約 1 / 4
- ・ 流域内人口は、熊本県人口の約 1 割
- ・ 球磨川の下流に位置する八代市は熊本県第 2 の都市であり、九州の南北を繋ぐ交通の要所
- ・ 上流部人吉市は九州の小京都と呼ばれる球磨地方の中心都市

流域の概要(地域特性)

球磨川水系

参考資料3

土地利用

- ・ 球磨川流域では 8 割以上が森林
- ・ 人口・資産は、下流の八代市及び上流の人吉市に集中



※流域内及び想定氾濫区域内の市町村について作成。
八代市は、旧千丁町・旧鏡町を含む

産業

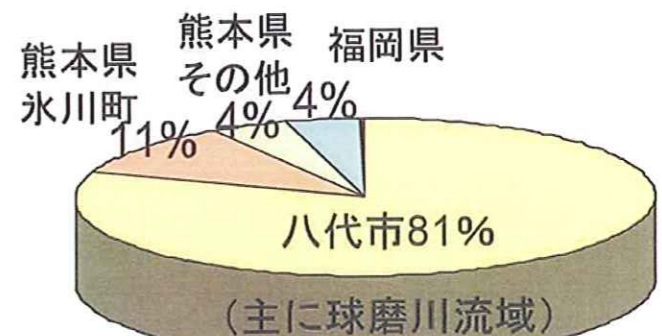
- 【工業等】
- ・ 下流の八代市では、球磨川の水を利用した製紙業、金属製品業等の工場が立地。
 - ・ 河口付近の八代港は、重要港湾、貿易港等に指定され、南九州開発の拠点工業港として発達。

- 【農業等】
- ・ 氾濫原の八代平野では、米・イ草の二毛作が盛ん。最近ではハウス栽培が盛んで、トマトの生産高は県内 1 位。
 - ・ 上流部は穀倉地帯を形成。米焼酎造りが盛ん。

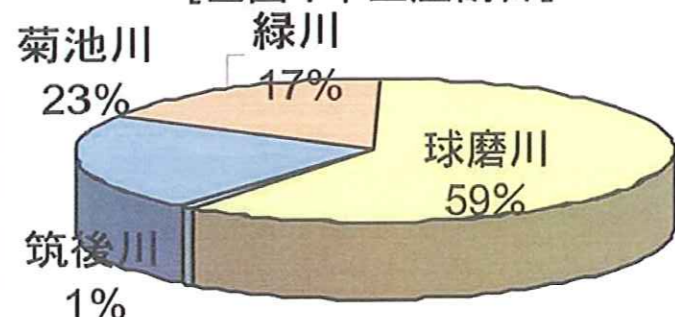
- 【その他産業】
- ・ 球磨川におけるアユの漁獲量は、熊本県内の約 6 割を占める。
 - ・ 日本三急流と称され、球磨川下りは全国的に有名。アユ釣り、温泉と併せ、人吉・球磨地方の観光のシンボル。



球磨川河口付近に位置する八代港



[全国イ草生産割合]



[熊本県アユ漁獲量]



凡 例

- 主要都市
- 鉄道(JR線)
- 主要道路
- 高速道路
- 流域界
- 想定氾濫区域

【球磨川の諸元】

- ・ 流域面積 : 1,880km²
- ・ 幹川流路延長 : 115km
- ・ 流域内市町村 : 4市5町5村
- ・ 流域内人口 : 約14万人
- ・ 流域内一般資産額 : 約1.8兆円
- ・ 想定氾濫区域内人口 : 約14.5万人
- ・ 想定氾濫区域内資産 : 約1.9兆円



河川利用の現状と課題

球磨川水系

八代、人吉地区では、河辺は散策、スポーツ等、市民の憩いの場を形成

より一層市民が水辺に近づけるような親水空間としてのハード、ソフトの対策



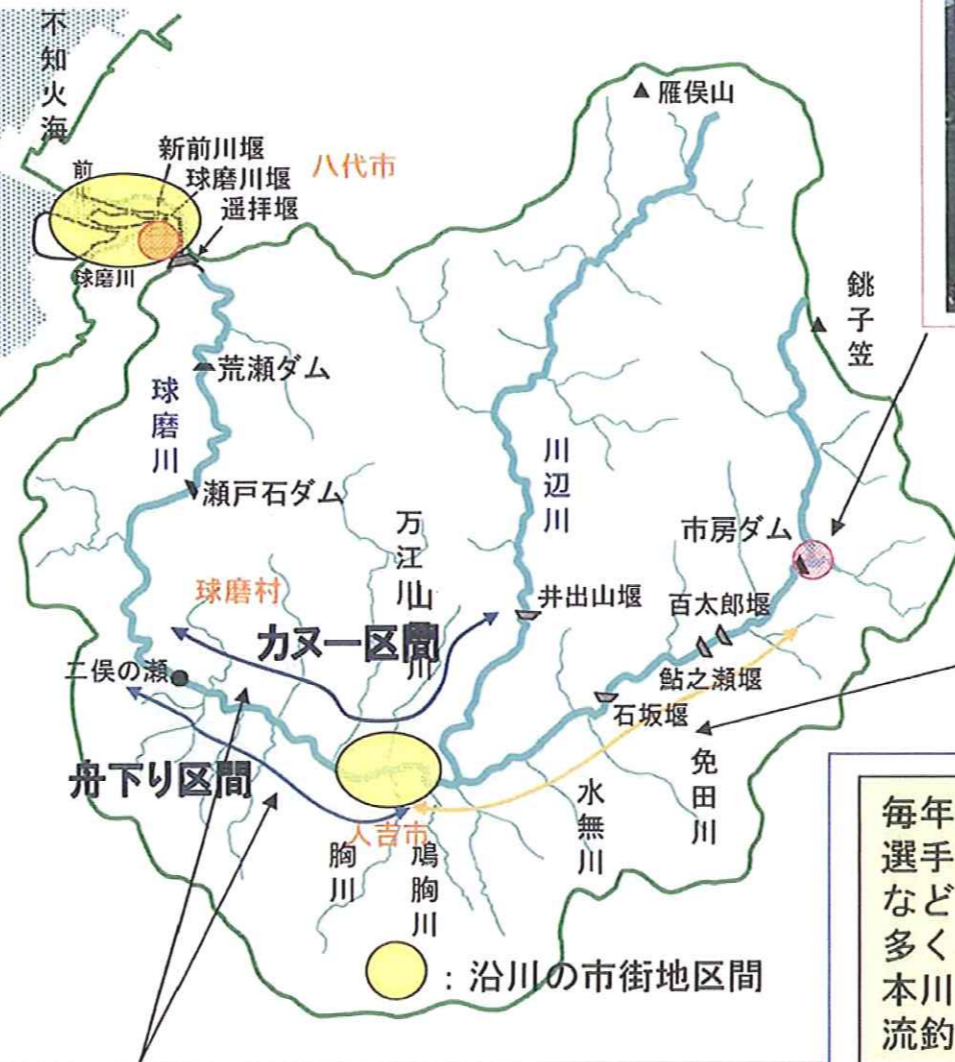
下流部の豊原公園（八代市）はスポーツやイベントが盛ん



地域イベントも行われる市民の憩いの場（人吉市）



毎年、全国花火師競技会も開催（八代市）



市房ダム周辺

市房ダム周辺は桜の名所。毎年県外を含む多くの花見客を集める。

人吉から上流にはサイクリングコースが整備され、多くの人々が利用。



サイクリングロード

※経時後堤HPより

毎年夏には「全国大鮎釣り選手権大会」が開催されるなど、大型のアユを求めて多くの釣り人が流域を訪問。本川や川辺川上流部では溪流釣りが盛ん



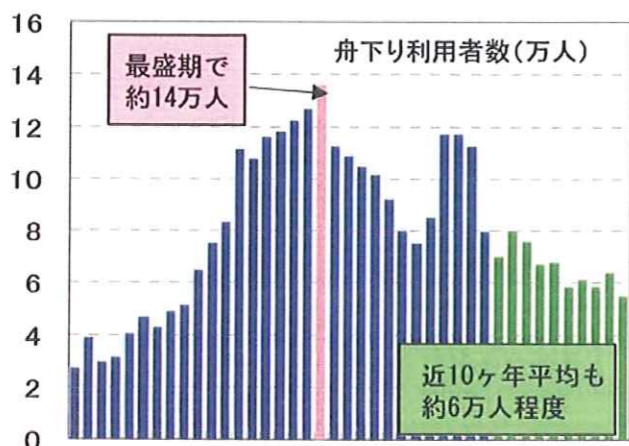
アユ等の豊かな河川生態系を育む生息・生育の場となる瀬・淵の再生・保全



二俣の瀬（48k）周辺はアユの生息する瀬が多く存在

ダイナミックな流れが30kmに渡って連続し、観光シンボルとなっている舟下り、近年はカヌー、ラフティングの利用者も多い

ダイナミックな川の流れの保全。良好な景観の保全



S.38S.42S.46S.50S.54S.58S62 H.3 H.7 H.11H.15



人吉・球磨地方の観光シンボル

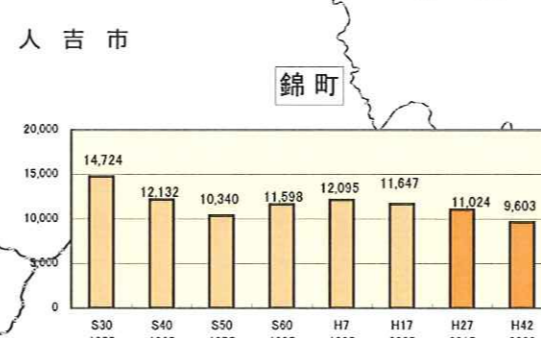
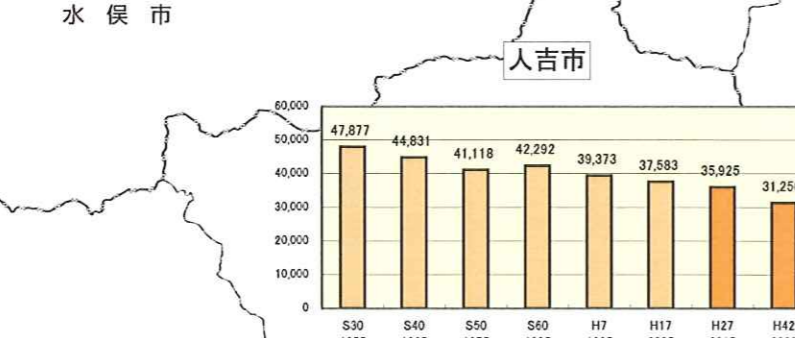
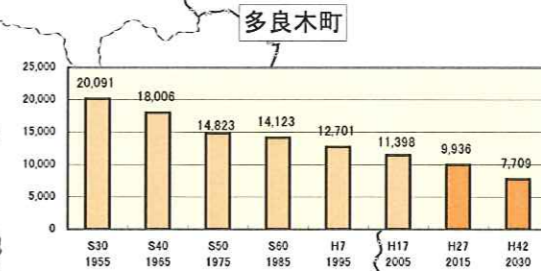
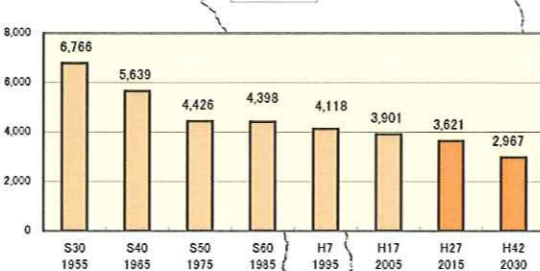
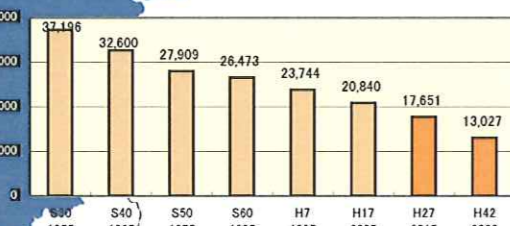
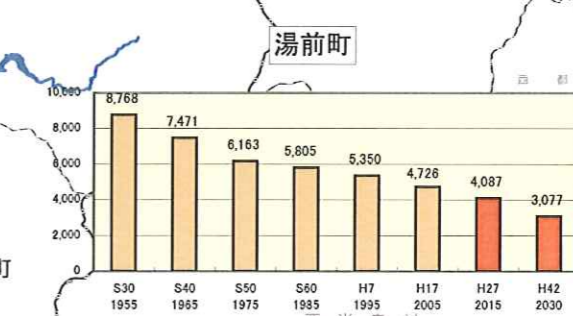
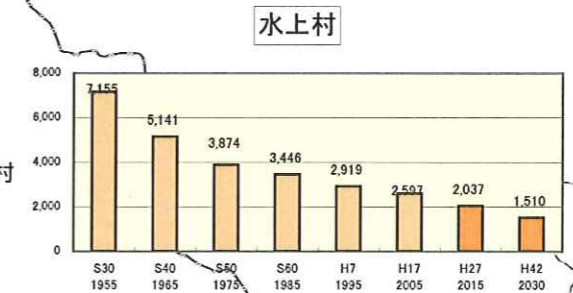
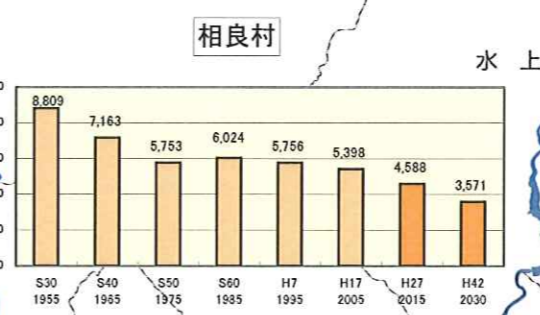
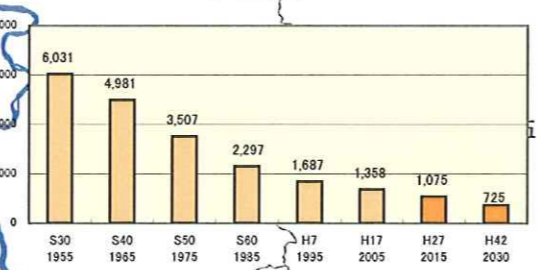
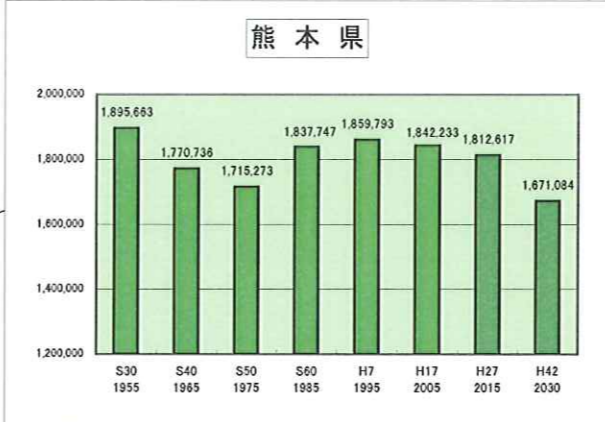
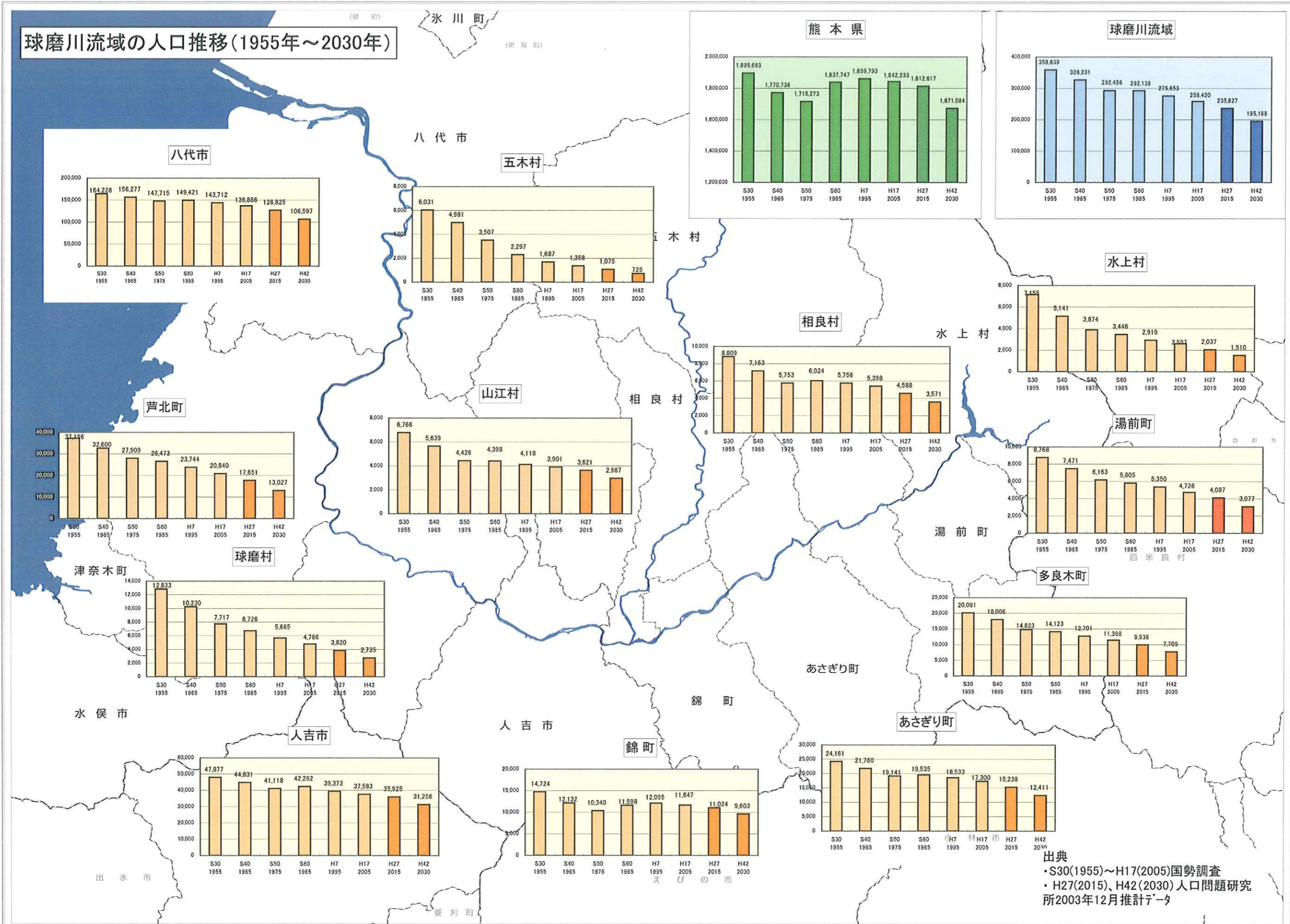
【急流コース】



九州唯一のラフティングコース

【ラフティング】

球磨川流域の人口推移(1955年～2030年)



出典
 ・S30(1955)～H17(2005)国勢調査
 ・H27(2015)、H42(2030)人口問題研究所2003年12月推計データ